

無しで魅力が伝わる平屋の家。



真壁と檜の大黒柱が和を彩る

新居浜市船木 H様邸

黒を基調にしたことで落ち着いた雰囲気を醸し出しながらも、張り分けたブラウンと破風の黄色がアクセントになり、洗練された外観となりました。こちらのお施主様は木がとてもお好きで、ケヤキの框やうづくりの杉板、曲がりの強い変木など、様々な種類の木材を使用しています。特にケヤキの大黒柱のあるLDKは、天井に化粧梁と杉板貼り、壁は真壁、床は杉の無垢板、繋がりで和室があるなど見所が多くあります。個性的な柱、部屋に応じて張り分けたクロス、スリッパホルダーや床板、キッチン収納などの内部造作も多く、南面に広々としたウッドデッキもあり、白川建設だからこそ可能な仕様が詰まった、和の住宅が完成しました。



匠の技術が光り至るところに目を奪われる玄関ポーチ
玄関土間の高さをあえて下げ、踏板を介してホールに上がれるような玄関ポーチ。踏板、框には木目が美しいケヤキを使用。ホールにはスリッパホルダーを大工が造作。勾配天井とお施主様希望の変木の梁が、空間にアクセントを入れ広がりを出している。



ウッドデッキにつながる洗面脱衣室

広い洗面脱衣室から家事室へ、さらにその先のウッドデッキまでの流れに。毎日の家事の動線をよりスムーズにこなせるよう工夫。使い勝手を計算されつくした間取りになっている。



腰壁をアクセントに使ったナチュラルモダンなトイレ
少し広くスペースを取ったトイレには、造作の手洗いと収納棚を設置。少しだけ入れた腰壁により、トイレの雰囲気が大きく変わり、ナチュラルモダンで優しい印象の仕上がり。



お子様も両親も寛げる畳コーナー

小さなお子様が寝転んだり遊んだりできる畳コーナーを日当たりの良い南面に配置。畳は近年では少なくなってきた縁ありの1帖畳。床板には3mの無地の桧の一枚板、天井には幅の広いうづくりの杉板を。



趣味と和が融合した主寝室

中心部分に畳を、その周りには杉の無垢材を敷くことで落ち着いた和の寝室になった。西側に旦那様が絵を描ける小さな書斎を設け、机には杉の一枚板を使用。繋がりウォークインクローゼットの全てを杉板張りにし、調湿性や脱臭性を高めている。窓枠材は既成品ではなく無垢材を用い、木との一体感で「和」を強める。



ケヤキの大黒柱が存在感を放つLDK

日本家屋の建築用材として古くから多用され、神社仏閣などにも用いられてきたケヤキだが、現在は高価となり一般家庭にはあまり使用されなくなってきた。しかしその木目には美しい光沢があり、非常に硬いことで知られている。約22畳の広いLDKの中央に堂々と立つケヤキの大黒柱があることで、空間の縦の広がり演出している。テレビ台に杉の一枚板を使用し、柱が見える真壁にしたことで、和の雰囲気を一層高めている。